

J S A

北海道支部ニュース

(No. 374)

日 本 科 学 者 会 議 北 海 道 支 部
事務局 〒 001-0022
札幌市北区北 2 2 条西 2 丁目1-2
静麗荘32号室

振 替 02740-1-6811
TEL. FAX (011)707-2299
Eメール jsa-hokkaido@gol.com

北海道支部 ホームページ : <http://www.jsa.gr.jp/hokkaido/>
JSA本部 ホームページ : <http://www.jsa.gr.jp>

北海道支部総会	1
Facebookの立ち上げ	1
科学談話室	2
支部の研究会等紹介	3
支部創立50周年記念	3

2016年度北海道支部総会を開きます！

— 支部会員の方は誰でも出席出来ます —

2016年度北海道支部総会を下記の通り開催します。支部会員の方は誰でも出席出来ます。出席して、ご意見をお出してください。出席出来ない場合は、同封ハガキ、メールまたはファクスで支部事務局宛に委任状を提出してください（連絡先は本ページ右上参照）。経費節減のため、可能な限りメールまたはファクスでのご連絡をお願いいたします。

記

☆ 日 時： 2016年5月15日（日）13:00 ～ 16:30

☆ 場 所： 北大農学部1F 1階N11番講義室（予定・札幌市北区北9条西9丁目）
農学部正面玄関入り、廊下を右に進み突き当たり左の部屋です。

報告及び議題：

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 2015年度支部・班・委員会等活動報告 | 2. 2015年度会計報告、監査報告 |
| 3. 2016年度支部活動方針案及び予算案 | 4. 全国大会議案意見交換 |
| 5. 支部役員及び全国大会代議員選出 | 6. その他 |

北海道支部Facebookページを立ち上げます！

支部常任幹事会

北海道支部では、これまでWebページおよびブログの開設により、情報発信の強化を図ってきました。しかし、それらを活用した会員相互の情報交換や、新会員の加入促進に十分に繋がっていないように思われます。とくに院生会員が急激に減少していることに顕著ですが、Webを通じて若い方々はじめより幅広い層に日本科学者会議の活動の一端を知って頂き、活動に少しでも関心を持って下さる方々と繋がっていくことは本支部の喫緊の課題であるといえます。

他方で近年、Facebookを中心としたSNS（Social Networking Service）が社会的に普及し、各種情報交換の場として一般化しつつあります。日本科学者会議の支部のうち、大阪支部や静岡支部、新潟支部ではすでにFacebookページを立ち上げており、支部会員の活動なども発信しています。

これら状況を鑑み、2015年11月22日に開催された2015年度第2回支部幹事会において、事務局からFacebookの開設を提案しました。幹事会においては、情報発信を継続させるための課題、不特定多数への情報発信のリスクも議論されましたが、活発な情報発信および若い会員獲得の可能性を広げるツールとしての有効性が確認され、開設の承認を得ることとなりました。

以上の経過を踏まえ、本支部では従来のホームページをWeb上の拠点として維持しつつ、それと連動させながら、本支部への入り口として、また、即時的な情報発信・情報交換の場として、Facebookページを開設することとしました。

本年**4月1日**からの設置を目指してただいま準備中です。このページは広く公開し、Facebookのアカウントをお持ちでない方でも見るようにしたいと思えます。アカウントをお持ちの方は「いいね！」していただければ幸いです。それにより各自のニュースフィードに自動的に支部ページの情報が表示されるようになります。また、会員を増やすという目的もありますので、Facebookページについては会員・非会員での参加区分けはしません。是非ともお知り合いの方々にもお知らせ頂ければ幸いです。

Facebookページに掲載する内容については、支部ニュース記事からの抜粋や会誌「日本の科学者」の内容紹介などを月1回ペースで定期的に発信するほか、支部イベント（支部総会、科学シンポジウム等）の情報発信、支部研究会や班・分会等の活動紹介、支部による声明・政策提言など不定期のものも含めて充実を図っていく予定です。また依頼があれば、支部会員個人の活動紹介（イベント開催・出版物紹介）なども発信していきたいと考えていますので、お気軽に事務局（jsa-hokkaido@gol.com）までお問い合わせ下さい。

またFacebook活用のためのアイデアやご意見なども是非ともお寄せ下さい。

【科学談話室】 2015年ノーベル物理学賞「ニュートリノ振動」に寄せて

ー藤井寛治の紹介ー

ニュートリノ振動の発見に大きく貢献した日本の実験グループに対し、2015年ノーベル物理学賞が贈られました。現在まで、「世代」が異なると表現される3種のニュートリノが実験で確認されており、それぞれが三つの異なる質量をもつニュートリノの重ね合わせとして理論的にあらわされます。そのため時間の経過に伴い世代間の遷移が生じ、ニュートリノ振動と呼ばれる特徴的な運動形態が観測されることとなります。ニュートリノ観測実験のスケールは、大きく拡大し、国境を越えた研究者の協力共同をもたらしています。

今後、ニュートリノの性質 --- 質量をふくめて振動現象に関わるパラメーター達、物質との相互作用の詳細、など --- の実験研究がすすめられるでしょう。それと併せて、ニュートリノの特徴ある性質の理解が、宇宙の構造と歴史の解明に寄与するであろうと期待されます。そこで、ニュートリノの研究を長年続けてこられた藤井寛治会員に、今回のノーベル賞に至る「ニュートリノにまつわる物理学の歴史」を解説いただきました。（編集部：本文は、支部ニュースに載せるには長大であるために、支部ホームページに掲載します。ぜひご覧ください。）

若いOB会員の参加を切望

小高 真一

1973年以来、常任幹事の仲間であったサケ・マス孵化場の石田昭夫会員から、1987年の定年退職を機に「J S A会員のO B会」設立の相談を受けました。

定年退職＝退会に歯止めをかける一助として、長続きする談話会とするため、会費なし、会則を作らず、テーマも決めず「会員相互の自由な談話を楽しむ会」として発足するとの原案は直ぐに決まり、札幌周辺在住の個人会員の名簿づくりを開始しました。発起人に、後藤美智子会員が加わるとこの計画は急速に具体化し、事務局を会場として毎月第3水曜日の午後を開催する「第3水曜会」が1990年に発足しました。

北海道支部設立当初から活躍されていた、小野寺昌二、八木健三、渡辺 昂の諸先生が常連として発足当初から参加され、毎回10人前後が集まり現在27年間継続。その後活動の記録を残そうと、旧林試の前田会員が中心になって「ニュースレター」を99年4月から毎月発行するようになり、今年の2月に463号が発行されて、「継続は力なり」を実行中です。

しかし設立からの経過年数に比例して「後期高齢者が中心の会」となり、定年退職されて間もない会員の加入を切望しております。

毎月第3水曜日の午後1時30分に事務局に集まっておりますので、奮ってのご参加をお待ちしております。

【支部創立50周年記念原稿】

さまざまな研究会にかかわって

清野 政明

科学者会議には、1966 年東京支部設立とともに参加し、1975 年に気象庁から札幌管区気象台への転勤で、北海道支部の会員になった。当時は忙しさのために支部の行事などに参加できず、会費の払いも悪い不良会員であった。

支部災害問題研究会

1980 年、つくばの気象研究所に転勤、1994 年に退職して札幌市に住み、再び道支部会員となった。このころ北海道周辺では大地震が続発し、1995 年には阪神淡路大震災が発生した。私は支部と相談して他団体とともに実行委員会を作り、1996 年 5 月「北の地震・津波災害」シンポジウムを開催した。これを契機に、6 名の支部会員で「災害問題研究会」が作られた。

2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が発生した。私は、数名の支部会員とともに、札幌市内での「風力発電推進」のフォーラムに出席、「風力発電」批判の発言をした直後であった。その瞬間、私は三陸沖に 1933 年並みの巨大地震・津波が発生したと直感した(実際にはその約 20 倍の地震)。

急ぎ家に帰り、旅行先（千葉県）の妻と連絡を取るもすでに電話はパンク状態。夜になりようやく妻からの無事の連絡がきた。その後、当研究会メンバーや常幹との連絡の結果、支部が情報交換会を設置した。

この情報交換会は、4月19日に、「東日本太平洋沖地震・津波災害および福島第1原子力発電所問題に関する私たちの見解」を作成、公表した（支部ニュース No.328）。この「見解」

は、今でも的確で有効な内容であると思っている。情報交換会は、更に他団体とも連携して実行委員会を作り、12月3日、“東日本大震災”札幌シンポジウムを開催した。参加者は160名であった。

千歳川放水路問題検討委員会

千歳川放水路問題は1982年に始まり、私が1994年に札幌に来た時には、既に検討委員会（八木健三代表、故人）で、多くの会員が放水路に反対する旺盛な活動の最中であった。洪水が専門外の私は、気楽に委員会の議論に参加した。

支部は1999年2月13日に「石狩川・千歳川治水の今とこれから」と題する科学シンポを計画、八木代表・神山桂一会員（故人）・石崎健二会員が報告者と決まっていた。



2月5日、神山会員が突然インフルエンザで高熱をだし、私が代役をつとめることになり、あわてて洪水の基礎から勉強した。開発局による「石狩川基本高水流量 $18,000\text{m}^3/\text{s}$ 」の確率的な合理性を疑っていた私は、これを主題にした「千歳川の大洪水対策の方向」の講演で何とか乗り切った。

放水路問題の最終段階である2001年1月29日、道と開発局の主催による「千歳川流域治水対策全体計画検討委員会第5回意見交換会」が開催された。当支部から神山会員・清野・石崎会員が発言した。

私は「石狩川・千歳川流域治水対策についての今後の検討方向」という題で、「基本高水流量 $18,000\text{m}^3/\text{s}$ は統計的にみて過大で、 $15,000\text{m}^3/\text{s}$ が妥当」という意見表明をした。開発局推薦の2人の河川工学専門委員から、厳しい反論があるかと思ったが、質疑を通して自分の意見が基本的に受け入れられたことを感じ、ホッとした。

それからまもなく千歳川放水路計画の中止が決まったが、真夜中に激しい雨音があると、私は飛び起きてウェブで石狩川・千歳川の水位データをのぞいた。

地球温暖化問題勉強会

1992年頃、気象庁時代の大先輩根本順吉氏（故人）は「炭酸ガスによる地球温暖化論」に厳しい批判をしていたが、私のまわりで同調する人はほとんどいなかった。2000年を過ぎたころ、意外にも支部内に「温暖化論」への批判者が多いことに驚いた。

改めて勉強する必要があると感じて、2004年7月から「地球温暖化問題の総合的理解」を目的に6人の会員で「地球温暖化問題勉強会」を始めた。現在4人で月に1回弱のペース、92回目となるが、3人が故人となったのは残念である。

一方、今回の締約国会議（COP21）をみても地球温暖化問題の解決は簡単ではなく、現政府は極めて消極的である。

気温上昇2度以内という今世紀の目標は達成されそうにない。温暖化に対する具体的適応策がますます重要である。

この間、私には忸怩たる思いがある。意見を異にする会員が主催する会に肩肘を張って出掛け、自説を主張した。その時、相手の立場を大切にしつつ科学的議論をしたかどうか、若気の至り（当時70歳）と反省している。